

LES BÂTIMENTS ET LES
ÉQUIPEMENTS D'ARCHIVES/
ARCHIVES BUILDINGS AND EQUIP-
MENT

文書館の建築と設備

ICA (国際文書館評議会) 教育・養成部門 教材シリー
ズ1

解説 ミシェル・デュシャン、1993年

35mmスライド40枚、カセットテープ1点、テキスト8p

本セットは、文書館学教育とアーキビスト養成のためにICA教育養成部門が発行した教材シリーズ第一弾である。解説にあたったデュシャン氏は1992年段階でフランス文書館

総監察官を勤めていた人物で、1966年にこの分野の著作をICAから出版したのを手はじめに、1977年にICAハンドブックシリーズVOL.1『Archive Buildings and Equipment』（英語版）、1988年には同シリーズVOL.6として増補版を刊行している。利用者は、解説テキスト（はじめに・解説概要・参考文献抄）を手でスライドを注視しながら、カセットに吹き込まれた氏の実況的な解説を聴いて、学習することになる。なお、本教材はすべて仏語・英語併用である。

解説テキストによれば、本教材はアーキビストや行政の記録管理担当者が記録史料の保全と開発に適した条件を備えることに寄与することを目的とし、重点を「物理的な保存」に関する事、また作業管理空間・公開空間・保存空間の区分け、に置くとしている。ただし、小さなプログラムであるため、空調・防火・盗難・虫害・自動化等に関する設備については、対象にしていない。

内容構成を見よう。スライド1～7は、古い建築物を改造した文書館とより開かれたより保存に適した現代文書館、損傷史料・未整理史料群と整然と収納された収納庫を対象的に取り上げ、これから学習する対象について基礎的理解を促す。8・9では古い建築物を取り壊すことなしに保存空間等を増築する例が映し出される。10～15は、フランスのニースとトロワにある県立文書館について、構造図と外観から、作業・事務・公開の各空間と保存空間（収蔵庫）の分離を明確に示す。これに対し、箱形のビルディングである16 オーストラリア国立文書館は、上階と収蔵庫のある下階を耐火性の床で分離した例、さらにこれと反対に17 フランス・バルドゥマルヌ県立文書館は収蔵庫をウインドウレス建築にした上階に配置した例である。

18～20では金属性書架、中性紙ボートボックス、移動式書架などの使用について、温湿度変化や気候の観点から注意を喚起し、21～25は、史料形態や媒体の性質の違いによって収納・保存方式を使い分けることを示

す。26～38では、移管から整理、マイクロフィルム作成、保全（ラミネート加工）、修復（リーフキャスト方式）、閲覧公開、展示、教育活動に至るまでの防護措置・空間利用・設備機器等が具体的に映し出される。最後には、王権の宝物としての王立文書館（故宮博物院）と、公衆と管理と文化機能のために開かれた今世紀末の文書館＝セヌエマルヌ県立文書館が、これまた対照的に配される。

この教材ではこの分野が、先端の科学技術によってというよりは、むしろ基礎的・実験的科学と全体の理論化、そしてその実践によって支えられてきたことが知られる。日本においては、気候や記録史料生成の特質等に応じてどんな実践がなされてきたのだろうか。そろそろ日本でもスライドやビデオを制作して本格的な議論を進め、世界に情報発信する時期にきているのではないか。

保坂裕興・駿河台大学